

諸行無常の中での「なもあみだぶつ」

総 務 藤 谷 知 良

新たな年が始まり、報恩講も多くの皆様に御参拝いただく中でお勤めさせていただくことができませんでした。心より感謝申し上げます。ご家族揃っての御参拝、誠に嬉しく思います。

一方で、新年早々、北陸での地震と飛行機事故という悲報が私たちの周りに広がりました。これらの出来事により、多くの方々が痛ましい犠牲を強いられ、大変な苦難に見舞われています。この場をお借りして、被災されお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表し、そのご家族に慎んでお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興と安寧を願います。

年初に起きた災害や事故は、私たちがいかに予測不能な瞬間に生きているかを痛感させられます。この不確かな日々を過ごす中で、私たちは諸行無常という教えを身をもって感じる必要があります。

ます。私たちが生きている限り、未来は常に予測不可能であり、何が起こるか分からないことの不確かさがございます。

諸行無常は物事が絶えず変化し、移り変わることを指しています。喜びも悲しみも、安定も不安も、すべては流転の中にあります。私たちが思い描く未来が一瞬にして揺らぎ、変化する姿を理解することは、心を穏やかにし、物事に柔軟に対応するための智慧となります。

そして、私たちにとって心の支えとなるのが、御開山聖人が説き広めていただいた教えである「なもあみだぶつ」です。「なもあみだぶつ」は、私たちがこの無常な世界で安らぎと希望を見出すための教えです。諸行無常の中で、「なもあみだぶつ」を称えることは、私たち凡夫にとって不確かな未来に対して心の平安を見いだす唯一の手段です。この教えを心に刻み、日々の生活に取り入れていくことで、穏やかな心を育み、他者に対する思いやりを深めることができます。

諸行無常の真理と南无阿弥陀佛の慈悲に触れながら、お互いに支え合い、心豊かな日々を築いていけることを願っています。

宗 達

宗 達 第一二〇六号

法主殿来る令和六年三月二十日讚佛会に御親教相成る

令和六年一月八日

法主鈴印

宗務総長
大僧都
増
田
修
誠

宗 告

宗 告 第一一六二号

来る令和六年三月十七日より同二十三日まで讚佛会執行相成る

令和六年一月八日

宗務総長
大僧都
増
田
修
誠
宗務
中僧都
藤
谷
知
良
総務
中僧都
弓
削
弘
胤

宗 告 第一一六三号

来る令和六年四月六日より同十一日まで千部法会執行相成る

一、新加入者 六日、七日、八日

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和六年一月八日

宗務総長	総務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増	藤	弓
田	谷	削
修	知	弘
誠	良	胤

宗 告 第一一六四号

来る令和六年四月六日 内々佛殿永代経執行相成る

令和六年一月八日

宗務総長	総務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増	藤	弓
田	谷	削
修	知	弘
誠	良	胤

宗 告 第一一六五号

来る令和六年四月九日・十日十万人講法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和六年一月八日

宗務総長	総務	大僧都	増	田	修	誠
	総務	中僧都	藤	谷	知	良
	総務	中僧都	弓	削	弘	胤

宗 告 第一一六六号

来る令和六年四月十一日午前十一時より戦没者追弔法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和六年一月八日

宗務総長	総務	大僧都	増	田	修	誠
	総務	中僧都	藤	谷	知	良
	総務	中僧都	弓	削	弘	胤

任 免

令和五年十二月二十六日

神戸別院評議員を命ずる

心海寺住職

谷 晃淳

善昌寺住職

金信 玄昌

依請解其職

神戸別院評議員

真鈴川暉明

令和五年十二月三十一日

依請解其職

庶務部環境美化課課長兼教学課

録 事

柏原 真教

令和六年一月五日

依請解其職

参拝課

小川ひろ子

組長交代

令和五年十二月三十一日

依請解其職

三重第二十六組組長

鈴木 孝章

令和六年一月一日

三重第二十六組組長を命ずる

眞臺寺住職

日野 雅道

学 階

令和五年十二月五日

授 擬 講

佐々木妙雅

褒 賞

令和六年一月十五日

法主褒賞

專照寺住職

加藤 正美

布教任命

修正会御繙御書（日中）

一・一 大律師 佐々木裕智

修正会

一・二 晨朝 権少僧都 真置 信海

一・三 日中 中僧都 弓削 弘胤

一・三 晨朝 少僧都 千草 篤昭

日中 中僧都 藤谷 知良

一月御影堂常在説教（晨朝）

一・四 律師 隆 妙灑

一・五 権中僧都 里榮 秀教

一・六 権中僧都 栗廻 隆興

一・七 律師 若林 妙百

一・八 大律師 高島 光憲

一・九 律師 堤 一真

一・一七 少僧都 岡 知道

一・一八 権中僧都 栗廻 隆興

一・一九 律師 隆 妙灑

一・二〇 権中僧都 田中 明誠

一・二一 権少僧都 真置 信海

一・二二 律師 吉尾 真祐

一・二三 少僧都 青木 妙法

一・二四 少僧都 藤澤 真樹

一・二五 大律師 千賀 光真

一・二六 権大僧都 浦井 宗司

一・二七 律師 田中 唯聰

一・二八 権中僧都 田中 明誠

一・二九 権中僧都 村上 英俊

一・三〇 律師 堤 一真

一・三一 大律師 高島 光憲

一月御影堂常在説教（逮夜・日中）

一・七 逮夜 権少僧都 高藤 英光

一・八 日中 中僧都 青木 義成

二月御影堂常在説教（晨朝）

二・一 権大僧都 戸田 栄信

二・二 中僧都 青木 義成

二・三 中僧都 佐藤 弘道

二・四	權中僧都	田中	明誠	二・二六		權大僧都	浦井	宗司
二・五	律師	吉尾	真祐	二・二七		律師	堤	一真
二・六	權中僧都	里榮	秀教	二・二八		少僧都	上田	英典
二・七	權中僧都	中村	宜成	二・二九		大僧都	上田	隆順
二・八	律師	隆	妙灑		二月御影堂常在説教(逮夜・日中)			
二・九	少僧都	岡	知道					
二・一〇	權中僧都	田中	明誠	二・二七	逮夜	權少僧都	真置	信海
二・一一	律師	田中	唯聰	二・二八	日中	中僧都	青木	義成
二・一二	大律師	高島	光憲	二・二九	逮夜	權中僧都	栗廼	隆興
二・一三	中僧都	青木	義成	二・一〇	日中	權中僧都	藤浦	弘導
二・一四	律師	堤	一真	二・一五	逮夜	權少僧都	高藤	英光
二・一五	權中僧都	生桑	崇等	二・一六	日中	少僧都	山中	真論
二・一六	權中僧都	中村	宜成					
二・一七	律師	隆	妙灑		高田慈光院 月例法会			
二・一八	大律師	高島	光憲	一・二六		權少僧都	真置	信海
二・一九	中僧都	戸田	惠信	二・一〇、一六、二六		權大僧都	浦井	宗司
二・二〇	大律師	塩崎	慶脩					
二・二一	少僧都	岡	知道		報徳園 月例法会			
二・二二	少僧都	青木	妙法	一・一五		權少僧都	真置	信海
二・二三	大律師	北畠	大道	二・一五		權中僧都	田中	明誠
二・二四	律師	北畠	心淳					
二・二五	中僧都	青木	義成					

敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。
令和五年

十二・二十八

三重県亀山市西町

誓昌院前坊守

梅林 昭美

令和六年

一・一

三重県津市大里山室町

願正寺前坊守

高松 シゲ

十二・七

三重県津市安濃町粟加

正全寺住職

藤 了雄

贈 権少僧都

一・七

三重県津市雲出本郷町

浄蓮寺前住職

日野 光昭

十二・八

愛知県海部郡大治町花常東屋敷

正覺寺前坊守

山田 雅子

贈 大僧都

一・二十三

三重県亀山市白木町

誓信寺住職

柏原 良信

十二・九

愛知県豊川市牛久保町稲市場

養樹寺若坊守

泉野 美雪

贈 権少僧正

十二・十七

三重県鈴鹿市若松西

台蓮寺住職

海原 至淳

一・二十四

愛知県岡崎市昭和町字川田

宝乘寺住職

服部 秀雄

贈 権中僧都

贈 大律師

十二・十七

三重県津市白塚町

万年寺坊守

多羅尾富子

宗門のお知らせ

報恩講懇志芳名

本年度の報恩講（お七夜）例年通り一月九日より十六日御満座まで御執行成り、念仏相続の喜びを十分に味わう事ができました。

ご懇志芳名を左のとおり記載し感謝の意を表します。年に一度のご正忌です。祖徳を偲び来年も懇念をよせられます様お願いいたします。

本寺専修寺
 名古屋別院
 北海道別院
 関東別院
 横浜別院
 三重第一組西部
 智慧光院 玉保院
 三重第一組東部
 成願寺 勝樂寺
 明覚寺 慈光寺
 浄泉寺 浄運寺

三重第二組甲部東
 東海寺 信行寺
 大円寺 善行寺
 三重第二組甲部西
 浄光寺 隨宏寺
 啓運寺 浄泉寺
 三重第二組乙部
 法流寺 願正寺
 真楽寺 西源寺
 三重第三組
 延命寺 浄誓寺
 光澤寺 潮音寺
 深正寺 善徳寺
 彰見寺 上宮寺
 三重第四組
 善休寺 西勝寺
 清雲寺 願成寺
 三重第五組
 法泉寺 光徳寺
 浄蓮寺 西方寺
 長安寺
 満願寺
 誓教寺
 實相寺
 豊久寺
 南昌寺
 教圓寺
 心覚寺
 泰應寺
 勝鬘寺
 仲安寺
 万年寺
 妙教寺
 長久寺
 本徳寺
 積善寺
 報恩寺
 泉光寺
 慈相寺
 圓照寺

宗門のお知らせ

三重第六組北部

圓福寺 本樂寺

唯称寺 善導寺

三重第十組

清光寺 千福寺

淨芳寺 延壽寺

甚國寺 金剛寺

欣淨寺 常照寺

正福寺 信蓮寺

三重第六組東部

明照寺 法性寺

光輪寺 大誓寺

三重第十一組東部

永福寺 常蓮寺

正福寺

淨泉寺(弁) 西光寺

光臺寺 東光寺

三重第六組西部

称名寺 萬徳寺

西方寺(市) 西福寺

三重第十一組西部

寶積寺 青巖寺

信行寺 真性寺

西念寺 光福寺

淨明寺 淨福寺

義明寺 常照寺

福專寺 延命寺

三重第八組

三縁寺 轉輪寺

迎接寺 長盛寺

三重第十二組東部

明通寺 淨福寺

西樂寺 猷忠寺

来迎寺 来岸寺

本光寺 明蹟寺

本照寺

西樂寺

松仙寺

佛照寺

安樂寺

常樂寺

三重第九組西部

圓淨寺 善福寺

大安寺

涅槃寺

三重第十二組西部

淨見寺 西蓮寺

大安寺

龍光寺

常照寺

清芳寺

西念寺

三重第九組東部

光現寺 唯信寺

照安寺

見立寺

正福寺

澄源寺

成覚寺

新立寺

普賢寺 西生寺

光雲寺

淨源寺

西性寺

宗門のお知らせ

三重第十四組

長徳寺 光明寺

恵日寺 称名寺

蓮光寺 西蓮寺

松原寺 来照寺

三重第十五組

常福寺 光善寺

光圓寺 真善寺

福泉寺 誓昌院

西徳寺 西信寺

三重第十六組南部

福萬寺 善照寺

西願寺 浄福寺

三重第十六組北部

保智院 海善寺

三重第十七組北部

玉泉寺 深廣寺

西岸寺 正福寺

三重第十七組南部

教安寺 心光寺

報国寺

正法寺

伝福寺

正蓮寺

明林寺

清福寺

永信寺

青蓮寺

真念寺

一乗寺

本念寺

西願寺

宝林寺

西林寺

法光寺

誓正寺

善性寺

法善寺

西生寺

光善寺

法雲寺

乘願寺

唯願寺

三重第十八組

龍泉寺

光源寺

願誓寺

中山寺

三重第十九組甲部

輪崇寺

三重第十九組乙部

大雲寺

三重第二十組

常超院

法泉寺

西光寺

三重第二十一組東部

信福寺

養元寺

正源寺

三重第二十一組西部

光明寺

願正寺

蓮光寺

興正寺

来教寺

誓正寺

願行寺

信最寺

浄福寺

欣浄寺

正行寺

三誓寺

勝光寺

万性寺

大蓮寺

誓元寺

法林寺

高山寺

本立寺

正泉寺

上品寺

立法寺

善教寺

成満寺

聖洞寺

栄信寺

顕正寺

誓覚寺

真永寺

宣隆寺

林昌寺

林昌寺

林昌寺

林昌寺

林昌寺

林昌寺

林昌寺

林昌寺

宗門のお知らせ

本浄寺	光福寺	念聲寺	崇徳寺	三重第二十五組南部	唯信寺	西方寺	最勝寺	信光寺
宝珠寺				三重第二十五組北部	正法寺	満流寺		
三重第二十二組西部	聖徳寺	金光寺	正信寺	欣念寺	三重重第二十六組	花山寺	井福寺	正圓寺
蓮花寺				佛敎寺	見潮寺	見潮寺	見潮寺	常念寺
三重第二十二組東部	弘善寺	西蓮寺	佛教寺	台蓮寺	願證寺	常敎寺	西林寺	光明寺
寶祥寺	心海寺				海念寺	常寶寺		
三重第二十三組	称名寺	願行寺	宗休寺	善昌寺	三重第二十七組	西林寺	蓮性寺	光蓮寺
	隨願寺	法林寺	心覚寺	隨念寺	浄徳寺	西向寺		妙華寺
西光寺	撰取院	壽福院	良珠院		三重第二十八組	光明寺	正蓮寺	栄松寺
常超院					直轄	大仙寺		本念寺
三重第二十四組甲部東	本照寺	正念寺	真昌寺	慈敎寺	愛知第一組	久遠寺	正覺寺	
三重第二十四組甲部西	正樂寺	要泉寺	大音寺	誓覚寺				
三重第二十四組乙部	成泉寺	清涼寺	了性寺	蓮性寺				
西蓮寺	法専寺							

宗門のお知らせ

愛知第二組

教津坊

愛知第三組

万福寺

法性寺

愛知第四組

蓮教寺

宗延寺

愛知第五組

満性寺

浄泉寺

愛知第六組

東泉寺

徳林寺

愛知第七組

聖眼寺

願成寺

愛知第八組

浄光寺

愛知第九組

西蓮寺

静岡

光福寺

神奈川

常専寺

東京

壽林寺

林柔寺

栃木

遍照寺

岐阜県

西林寺

滋賀県

流泉寺

京都

大仙寺

大阪

一乗寺

貞印寺

松林寺(豊)

松林寺(名産)

甚行寺

正福寺

澄泉寺

永福寺

願壽寺

唯念寺

願信寺

善教寺

養樹寺

西藏寺

正覚寺

聖賢寺

大乘寺

新潟県

延命寺

福井第二組

大願寺

寶幢寺

稱名寺(塙)

真浄寺

北海道

長正寺

高山寺

専誠寺

大徳寺

眞宗寺

弘専寺

誠満寺

真高寺

莊嚴寺

浄光寺

願勝寺

(二月三十一日現在)

お七夜竹あかり

今年は東海地方最大級の規模で、竹あかり作家川渕皓平氏による竹あかりの世界と、こども竹あかりなど二〇〇〇本を展示いたしました。

九日の点灯式では、総長のあいさつのあと、カウントダウンと共に一斉に点灯され、浄土の世界を荘厳する七宝樹林のように、美しい光で境内を

照らしました。

また、十四日には魯あす香氏による特別演奏会も開かれました。

お七夜はたちの集い

本年は都合により中止いたしました。

お七夜婦人連合会

一月十一日お七夜婦人連合会が多くの参詣のもと御影堂に於いて開催されました。

式典では、法主殿よりお言葉を賜りました。その後、逮夜勤行に参詣して岡崎市浄泉寺住職戸田恵信師のお説教を聴聞しました。『悪を転じて徳を成す正智』の講題でご法話を聴聞して、お七夜婦人連合会を終了いたしました。

お七夜坊守会

一月十二日に開催されたお七夜坊守会には、県外から参加の坊守様も含めて十二名の参加をいただきました。

昨年同様に、はじめに速夜参詣をいたしました。その後、速夜の説教師であった大河戸悟道師を第一会議室にお招きして、アンケートなどを元に座談会を開き、より詳しくみ教えを紐解いていただきました。

お七夜婦人連合会初夜参詣

一月十五日(月)に恒例のお七夜婦人連合会初夜参詣が行われました。

今年には三重県各地から集われた婦人連合会の方々以外にも、一般の同行様や竹あかりを觀賞にいられた参拝者も加わって、初夜が始まる午後四時

三十分には数百人が専修寺に集まりました。

初夜勤行では法主殿が報恩講式の初段・二段・三段を御通読されました。続いて四日市市誓元寺住職栗原廣海師のお説教を聴聞して午後七時前に法会が終了しました。

今年のお七夜もおおむね暖かい日が続き、境内いっぱいの竹あかりを觀賞される方々の笑顔が印象的でした。

お七夜子ども大会

本年は、お七夜子ども大会を中止いたしました。

ののさまを描こう展

今年には十六園から三九九点のご参加をいただき、園児たちの愛らしいののさまに心癒されました。その様子はYoutubeにてしばらく公開しております。

お七夜献書展

今年は一七九点の出品があり、例年通り廊下に展示しました。毎年甲乙付け難い良い作品が集まりました。また、今年も子ども大会を中止したため表彰式も行わず、各賞は直接教室ごとにお渡ししました。

お七夜高田派青年会

本年のお七夜高田派青年会は報恩講期間中、一月十四日(日)に開催致しました。昨年に引き続き初心者出勤講習として、青年会事務局が主体となり、初めての方でも安心してお七夜に出勤出来る様にと法式作法や衣体の着用方法・畳み方等の研修を行いました。その後、実際に初夜へ出勤しました。

責任役員会

一月十三日(土)御影堂にて十一時四十五分より、法主殿御臨席のもと開催されました。各寺院の責任役員約二〇〇名参加の中、法主殿のお言葉をいただき、宗務総長挨拶、山政報告の説明を行いました。

法主褒賞授与式

一月十五日お日中後、法主殿御臨席のもと法主褒賞授与式が執り行われました

本年の授賞者

・三重県鈴鹿市磯山

専照寺住職

加藤 正美 師

加藤様におかれましては御殿医を務められると共に鈴鹿中央病院の副院長として活躍されるなど宗門並地域社会に多大な功績を残されました。ここに授賞されました加藤様のご功績を称え心よりお祝い申し上げます。

能登半島地震の義援金寄託報告

令和六年一月九日から一月十六日迄のお七夜期間中本山に能登半島地震の義援金を募る募金箱を設置しましたところ、被災地に寄り添うとても温かな志の義援金を多数お寄せ頂きました。

尊命を失われた方、又は親愛なるご家族を失われた方々に深く哀悼の誠を捧げますとともに、一瞬にして当たり前の日常を奪われ、今も避難所等にて忍耐の日々を余儀なくされておられます皆様にお寄せ頂いた義援金を一日も早くお届けしたいと願ひ二月五日、三重県に寄託いたしました。

義援金をお寄せ頂いた皆様におかれましては、ご協力ありがとうございました。

今後も義援金を募ってまいりますのでよろしくお願ひします。

中学生教化合宿のお知らせ

本年は四期ぶりに開催します。三月三十一日からの二泊三日で、本寺をはじめ信州善光寺にも参拝する予定となっております。多くの参加者を募集いたします。詳しくは教学課までお尋ねください。

写生大会のお知らせ

三月十六日(土)～四月七日(日)まで写生大会を行ないます。期間中、午前九時から午後三時まで宗務院にて受付いたします。

応募作品は四月十二日(金)から五月五日(日)までお対面所にて展示いたします。

尚、今年は四月二十一日(日)花まつりにて、写生大会表彰式を執り行う予定です。

興学布教研究大会のお知らせ

四月二十九日(月)十時より高田会館ホールにて興学布教研究大会を開催いたします。

開会式を行なった後、三名の方に発表していただきます。

発表者一 未定 師
発表者二 青巖寺 住職 清水谷正尊 師
発表者三 真楽寺 住職 鷲山了悟 師

同和問題に取り組む会 報告

定例会――一月三十一日、二月二十二日、

三月十三日、四月十九日・六月六日・

七月二十四日・八月二十三日・

九月十九日・十月十八日・十一月十七日

・十二月十一日

・教団内の人権意識を高める啓発、施策

・機関誌『同朋』NO十四号の発刊(三月)、

NO十五号の編集

・部落解放研究三重県集会

(二月七日三重県総合文化センター)

「包括的な差別禁止法の必要性について」

九州大学名誉教授 内田博文氏

・三重同宗連後期研修会

(三月九日・十日水平社博物館・コリアタウン・難波別院)

・基本法みえ講演会

(六月二十六日 県人権センター)

「部落問題意識の現状と課題」

二〇二二年度三重県民意識調査から」

関西大学社会学部教授 内田龍史氏

・三重同宗連前期研修会

(六月十九日・真宗大谷派三重教務所)

映画「ドキュメンタリー沖縄戦」の視聴

太田隆文氏(映画監督)の講演

・高田派人間解放の集い

(九月一日 高田会館ホール) 約百名の聴講

なぜ、差別が問題なのか? 池田 徹氏

・三重同宗連後期研修会

(十月十一日〜十二日・松代大本営跡地下壕

と無言館を見学して)

長野市松代町に現存する「松代大本営跡地下

壕」は第二次大戦末期、本土決戦の最終拠点とし

て昭和十九年から翌二十年にかけおよそ九か月に

わたり極秘に建設され、およそ八割が完成したと

いわれている。同じく長野県上田市にある「無言

館」は日中戦争や第二次世界大戦で戦没した画学

生の作品や遺品が展示されており、フィールドワ

ークを通じ戦争と人権という学びを深めた。

本山行事予定

(三月・四月)

三月十四日

第七十四回檀信徒研修会

三月十六日〜四月七日

写生大会

三月十七日〜二十三日

讚佛会

三月三十一日〜四月二日

中学生教化合宿

四月

第十五回布教伝道大会

四月六日〜十一日

千部法会

四月九日〜十日

十万人講法会

四月十一日

戦没者追弔法会

四月二十一日

花まつり

四月二十九日

興学布教研究大会

下付金のお知らせ

平成二十九年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

(令和五年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。



令和6年・7年度高田短期大学仏教教育研究センター 仏教専門講座（高田本山寄附講座）実施要項

高田短期大学仏教教育研究センターでは、高田本山からの寄附によって履修証明プログラム「仏教専門講座（高田本山寄附講座）」を開講いたします。本プログラムでは、仏教を開かれた釈尊の教えや真宗の宗祖親鸞聖人が歩まれた仏道を学ぶことができます。多くの方のお申し込みをお待ちしております。

令和6年度 専門講座の内容

- ・日程 令和6年4月26日（金）～令和7年3月7日（金）
- ・科目 「仏教学概説」「仏教学講読Ⅰ」「高田の宗風」「真宗学講読Ⅰ・Ⅲ」
※他の講座については、令和7年度に開講します。
- ・場所 高田短期大学
- ・テキスト 『真宗高田派聖典』 定価15,000円
（真宗高田派聖典編纂委員会編 春秋社刊 2012年1月16日発行）
- ・受講対象者 仏教および真宗を学びたい方
- ・定員 対面：40名 オンライン：希望者全員
- ・受講料 テキスト代 15,000円
- ・募集期間 令和6年3月1日（金）
～3月22日（金）
- ・申込方法 下記アドレスまたは、
右のQRコードより
お申し込みください。



<https://www.takada-jc.ac.jp/campus/bukkyo/kouza-senmon/>

真宗高田派学階授与について

「専門講座」の10科目を履修し、すべての単位（20単位）を修得した真宗高田派教師に「助教」の学階を授与します。

真宗高田派布教使の認定について

真宗高田派学階「助教」以上の学階を有し、所定の研修を満たした（※）者を布教使と認定します。

※所定の研修とは、本山主催、教学院主催の法話発表会に各1回発表すること。本山常在説教で10席以上布教すること。

「専門講座」の申し込み、お問い合わせ

高田短期大学仏教教育研究センター仏教専門講座係

〒514-0115 三重県津市一身田豊野195

電話 059-232-2310（代表）

「学階」「布教使」のお問い合わせ

真宗高田派宗務院教学課

電話 059-232-4171

宗門のお知らせ

真宗高田派共済会のご案内

●全寺院対象の共済制度●

真宗高田派共済会運営規程による各種制度

○見舞金

- ・本堂全焼及び全壊 100万円
- ・本堂半焼及び半壊 60万円
- ・庫裏全焼及び全壊 60万円

* 災害を証明する書類が必要

・境内地並境内建物が災害を被った時は、2万円をお見舞いする
(追加されました)

* 被害総額が100万円以上の場合となります

○祝金

- ・本堂新築及び改築 60万円
- ・本堂を除く境内建物の新築および改築 10万円

* 工事費が1千万円以上の場合となります

* 高田派代表役員が発行した新築・改築の承認書と
工事契約書の写しが必要

○香料(住職の死亡から6ヶ月以内に申請のこと)

在任期間により給付金が異なります

- ・住職在任40年以上 50万円
- ・住職在任30年以上40年未満 40万円
- ・住職在任20年以上30年未満 30万円
- ・住職在任10年以上20年未満 20万円
- ・住職在任10年未満 10万円

○住職退職慰労金(退職から6ヶ月以内に申請のこと)

上記死亡の場合を適用する

○真宗教学奨学金(毎年4月末日までに申請のこと)

- ・高等学校生及び真宗各派の専修学院生 月額 2万円 若干名
- ・大学生及び大学院生 月額 4万円 若干名

月額 8万円 若干名
(追加されました)

○奨励金(毎年4月末日までに申請のこと)

共済会が指定した学校学部にて得度した者が入学したときに

4万円を支給します。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

真宗高田派共済会 真宗高田派宗務院内

電話 059-232-4171 FAX 059-232-1414

人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

令和六年二月二十日印刷
令和六年二月二十日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話（〇五九）二三三―四一七一
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 **宗務院**

振替〇〇一五〇―〇一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 **相和印刷所**

電話（〇五九）二三三―二〇七〇